

国語科シラバス（第3学年）

指導の方針

○基礎的・基本的な知識及び技能の習得をめざして

文章の内容や表現の仕方を理解させるために、効果的な言語活動を行います。
漢字練習や小テストを実施し、語句の知識を身につけさせます。

○思考力・判断力・表現力その他の能力の育成をめざして

根拠を明確にし、筋道を立てて自分の考えをまとめる、発表する等の学習活動を展開します。
ワークシートを活用し、重点的に書く活動を取り入れ、自分の考えを表現する学習活動を展開します。

○学習意欲の向上や学習習慣の確立をめざして

新授業六束を徹底して指導し、授業規律を確立させます。
デジタル教科書などの視覚的教材を活用し、指導の工夫を図り、学習意欲を喚起させます。

● 評価の観点と評価規準

評価の観点	主体的に学習に取り組む態度	思考・判断・表現 (話すこと・聞くこと・ 書くこと・読むこと)	知識・技能 (文法・漢字・言語 活動)
評価規準	知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら、学ぼうとしている。	目的や場面に応じて、自分の考えや気持ちを明確に表現することができる。 話し手の考えや意見を聞いて、意図や目的を理解することができる。 伝えたい事実や事柄、考えをまとめ、材料を整理して適切に文章表現することができる。 文章に表れているものの見方や考え方を正しく理解し、自分のものの見方や考え方を広げることができる。	音声、語句、語彙、文法、漢字などの国語に関する知識を身につけ活用することができる。
評価方法	提出物、ノート記述 ポートフォリオ評価 漢字・文法の確認テスト	発言、スピーチ、聞き取りテスト 課題作文、ワークシート 定期テスト、小テスト、ポートフォリオ評価	漢字・文法の確認テスト、定期テスト 小テスト、ポートフォリオ評価

評価と評定の関連

※評定（5段階）は、各観点の評価（A^{マル}O=5点、A=4点、B=3点、C^{マル}O=2点、C=1点）をもとに算出します。評価と評定の関連は、下表（例）のとおりです。

各観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	評定
A ^{マル} O A ^{マル} O A ^{マル} O	15点	A ^{マル} O A ^{マル} O A	14点			5
A ^{マル} O A A	13点	A A A	12点	A ^{マル} O B B	11点	4
A B B	10点	B B B	9点	B B C ^{マル} O	8点	3

B	マル CO	マル CO	7点	マル CO	マル CO	マル CO	6点	マル CO	マル CO	C	5点	2
	マル CO	C	C	4点	C	C	C	3点	/			1

第3学年 各学期の学習の内容とポイント

	学 習 す る こ と	学 習 の ポ イ ン ト
一 学 期	<p>【話すこと・聞くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「評価しながら聞く」 ・「説得力のある構成を考えよう」 <p>【書くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論理の展開を意識して書こう ・語彙を豊かに <p>【読むこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「世界はうつくしいと」長田弘 ・「握手」井上ひさし ・「学びて時にこれを習ふ」 ・「作られた「物語」を超えて」山極寿一 ・「俳句の可能性」宇多喜代子 ・「俳句を味わう」教科書資料 ・「言葉の釣り糸を垂らす」 ・「語彙を豊かに」 ・読書を楽しむ ・「私の一冊」を探しにいこう <p>【文法・漢字等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和語・漢語・外来語 ・熟語の読み方 ・文法の復習 ・硬筆 	<ul style="list-style-type: none"> ○聞き手の立場になって、スピーチを組み立てていくことが大切です。 ○文章の形態により、読者に与える印象が異なることを知り、文章表現に生かします。 ○詩、小説では、いずれも表現に即して考えることが要求されています。作品中の言葉を手がかりにして、作者の思いや登場人物の心情を読み取っていきましょう。 ○俳句については、「有季定型」を理解し、季節感を大事にして味わってください。 ○「高瀬舟」は、読書教材として扱います。 ○文法はきまりや法則を覚えることが大切。 ○漢字は定期的に確認テストを実施します。 ○硬筆は、校内に展示します。優秀作品は市の展覧会にも出品します。
二 学 期	<p>【話すこと・聞くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞き上手になろう ・音読 「古今和歌集 仮名序」 <p>【書くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの課題（読書感想文等） ・論理の展開を整える ・考えを効果的に伝えよう <p>【読むこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「挨拶」石垣りん ・「故郷」魯迅 ・「人工知能との未来」 ・「人間と人工知能と創造性」 ・「君待つと」万葉集等 ・「夏草一『おくのほそ道』から」松尾芭蕉 ・「初恋」島崎藤村 <p>【文法・漢字等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・慣用句・ことわざ・故事成語 ・漢字の造語力 ・文法のまとめ ・書き初め 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループ会議でまとめた意見を基に全体会を開き、提案をまとめます。相手の主張を受け止めた上で、自分の意見を述べるのがポイントです。 ○説得力のある意見文を書く練習をします。論理の展開の仕方を工夫し、資料を引用して意見を主張する文章を書きます。 ○文学的文章の読解の総まとめとして、「故郷」に取り組みます。古文にしても、説明的文章にしても、それぞれが総まとめとしての位置にあります。古文については、これまでと同様に、音読・暗唱に取り組みます。 ○辞書や便覧を使って、慣用句の意味や使い方を調べ、自分で使えるようにします。 ○書き初めについては、硬筆と同様、優秀作品は市展に出品します。

<p>三 学 期</p>	<p>【話すこと・聞くこと】 ・面接試験対策</p> <p>【書くこと】 ・条件作文対策</p> <p>【読むこと】 ・「エルサルバドルの少女ヘスース」長倉洋海 ・「それでも、言葉を」鷲田清一 ・「温かいスープ」今道友信 ・「アラスカとの出会い」星野道夫 ・「律儀な桜」角田光代 ・「わたしを束ねないで」新川和江 ・「初日」池田瑛子</p> <p>【文法・漢字等】 ・漢字の総まとめ ・文法の総まとめ</p>	<p>○高校入試の面接試験に備えます。</p> <p>○これまでの公立高校の入試で実施された条件作文の問題を研究します。</p> <p>○言葉の世界の確かさ、豊かさを味わい、人間や社会・自然について、ものの見方・考え方・感じ方を広げ深めていきます。</p> <p>○言葉の細部に目を向け、伝統的な言語文化の重要性に気づくことが大切です。また、社会の変化によって生まれる新しい語に対応できる力をつけることが大切です。</p> <p>○読解のまとめとして、実践問題を解いていきます。</p> <p>○文法・漢字は、練習問題に取り組みます。</p>
----------------------	--	---

社会科シラバス（第3学年）

● 指導の方針

○基礎的・基本的な知識及び技能の習得をめざして

- ・授業プリントを活用し、基礎学力の定着を目指します。
- ・毎時間の授業の導入に前時の復習（反復学習）を実施します。

○思考力・判断力・表現力その他の能力の育成をめざして

- ・「単元を貫く課題」を設定し、計画的に生徒が主体となる活動を設けます。
- ・2～4人のグループ活動を取り入れ、話し合いを行います。

○学習意欲の向上や学習習慣の確立をめざして

- ・問題集やノートを定期的に評価し、学習習慣の定着を図ります。
- ・デジタル教科書を使用し、関心意欲や資料活用能力の向上を図ります。
- ・埼玉県や上尾市の身近な地域の資料や課題を積極的に活用します。

● 評価の観点と評価規準 ※各観点の達成状況 A80%以上 B50%以上 C50%未満

評価の観点	主体的に学習に取り組む態度	思考・判断・表現	知識・技能
評価規準	社会的事象に対する関心を高めそれを主体的に追究し、広い視野に立ってよりよい社会を考え公民としての自覚を持って責任を果たそうとしている。	社会的事象から課題を見だし社会的事象の意義や役割、相互の関連を多面的・多角的に考察し、様々な考え方を踏まえ公正に判断し、適切に表現している。	統計や新聞、映像など社会的事象に関する資料を収集し、情報を適切に選択して読み取ったり図表にまとめたりしている。現代社会の見方や考え方の基礎、社会生活及び政治や経済の基本的な考え方、その意義や役割、相互の関連などを理解し、知識を身につけている。
評価方法	①授業中の観察 ②忘れ物 ③発言 ④提出物	①授業中の観察 ②発言・発表 ③ワークシート	①授業中の観察 ②ワークシート ③定期テスト

評価と評定の関連

※評定（5段階）は、各観点の評価（A^{マル}O=5点、A=4点、B=3点、C^{マル}O=2点、C=1点）をもとに算出します。評価と評定の関連は、下表（例）のとおりです。

各観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	評定
A ^{マル} O A ^{マル} O A ^{マル} O	15点	A ^{マル} O A ^{マル} O A	14点			5
A ^{マル} O A A	13点	A A A	12点	A ^{マル} O B B	11点	4
A B B	10点	B B B	9点	B B C ^{マル} O	8点	3
B C ^{マル} O C ^{マル} O	7点	C ^{マル} O C ^{マル} O C ^{マル} O	6点	C ^{マル} O C ^{マル} O C	5点	2
C ^{マル} O C C	4点	C C C	3点			1

学習内容と評価のめあて

月	学習内容	指導のめあて
4 5	歴史 第6章 二度の世界大戦と日本	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦前後の国際情勢を背景に、日本の国際的地位の変化や大正時代の政党政治の発達、民主主義思想の普及、社会運動の動きを通して日本国民の政治的自覚が高まったことを理解させる。 ・昭和初期から第二次世界大戦終結までの日本の政治・経済・外交の動きなどを、東アジア諸国との関係や欧米諸国の動きに着目させながら、経済の混乱、軍部の台頭、戦争の経緯と大戦の惨禍を理解させる。 ・戦時下の国民生活をなるべく身近に感じさせるとともに、戦争の惨禍にも目を向けさせ、関心や態度を養う。
6	第7章 現代の日本と世界	<ul style="list-style-type: none"> ・第二次世界大戦後の、日本の民主化と再建、国際社会への復帰について、世界の動きと関連させながら理解させる。 ・高度経済成長以降から現在までの日本と世界の動きの概要を、国民の生活と関連させて理解させる。 ・国際社会における日本の役割や、地域社会における個人の取り組みなどに関心を持たせるとともに、将来の社会に期待をいだかせ、社会の一員としての自覚を深めさせる。
6	歴史学習のまとめ・評価の時間 身近な地域の歴史	<ul style="list-style-type: none"> ・冷戦終結から現在までの日本の歩みを理解させ、将来の日本と世界について考えさせる。 ・各家庭における冷戦終結から現在までの出来事と、日本や世界の歴史を比較しながら考えさせる。
7	公民 第1章 現代社会と私たち ① 現代社会と私たちの生活 ② 私たちの生活と文化	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが生きる現代社会を概観させることで、公民的分野への関心を高めさせ、これ以降の公民学習につなげる。 ・地理的分野、歴史的分野との関連を図るとともに、現代社会の特色をさまざまな条件や要因から捉えさせるなど、多面的・多角的に考えさせる。 ・さまざまな資料から、現代社会の特色や、現代社会における文化の意義や影響について読み取らせ、適切に表現させる。 ・現代社会の特色としてグローバル化、情報化、少子高齢化が見られ、それらが政治、経済、国際関係に影響を与えていること、また、現代社会における文化の意義や影響について理解させる。 ・現代社会を捉える見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正などの見方や考え方があることを、具体的な社会生活と関連づけて理解させる。
	③ 現代社会の見方や考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・人間は家族や地域社会などの社会集団に所属して生活する社会的存在であることに着目させ、社会生活における物事の決定の仕方や決まりの意義に関心を持たせ、具体的に考えさせ

		<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な事例を通して、対立と合意、効率と公正などの見方や考え方が、現代社会を捉える見方や考え方の基礎となっていることを理解させる。 ・決まりの重要性や決まりを守ることの意義、個人の果たすべき責任について、社会の形成者としての立場から理解させる。
8	<p>第2章 個人の尊重と日本国憲法</p> <p>① 人権と日本国憲法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の尊重の考え方や法の意義について、基本的人権や日本国憲法の役割を中心に、具体的な活動を通して意欲的に追究させる。 ・現代社会のさまざまな人権上の課題の解決や、共生社会を実現するための取り組みに、社会の形成者として積極的に関わろうとする態度を育てる。 ・立憲主義の意義や公共の福祉による人権の制限などについて、具体的な事例を通して多面的・多角的に考察させ、その過程や結果を適切に表現させる。 ・日本国憲法の条文をはじめとするさまざまな資料に親しませるとともに、個人の尊重に関する資料を適切に収集・選択させ、的確に読み取らせる。 ・日本国憲法の基本原理（国民主権、平和主義、基本的人権の尊重）について、具体的な生活との関わりを通して理解させるとともに、自由・権利と責任・義務の関係が社会生活の基本となっていることに気づかせる。
9	<p>② 人権と共生社会</p> <p>③ これからの人権保障</p> <p>第3章 現代の民主政治と社会</p> <p>① 現代の民主政治</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化とともに人権の考え方が変化することについて、具体的な事例を通して気づかせるとともに、社会の変化に伴って生じた人権上の新しい課題にはどのようなものがあり、それらの解決がなぜ重要なのかを理解させる。 ・インターネットと人権との関係や人権保障の国際的な広がりなどについて、統計資料や新聞記事などを適切に選択させ、現状と課題を読み取らせるとともに、その解決策について多面的・多角的に考えさせる。 ・ディベートなどの学習活動を通して、個人の尊重と法の意義への関心を高めさせるとともに、社会の形成者として、人権を守り育て、民主的な社会を創り上げようとする態度を育てる。

10	<p>第3章 現代の民主政治と社会</p> <p>②国の政治の仕組み</p> <p>③地方自治と私たち</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・民主主義で物事を決める際に必要とされることや、私たちに求められていることについて考察し、適切に表現させる。 ・住民の声を生かした政治を実現するために、どのような取り組みがなされるべきか考察する。 ・民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わる意識を養う。
11	<p>第4章 私たちの暮らしと経済</p> <p>①消費生活と市場経済</p> <p>②生産と労働</p> <p>③市場経済の仕組みと金融</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調査や討論、シミュレーションなどの多様な活動を通して、経済に対して関心を持たせるとともに、経済に関する諸課題について、自ら考えようとする態度を育てる。 ・統計資料や模式図、新聞記事などのさまざまな資料を収集・選択させたり、読み取らせたり、その結果を分かりやすくまとめて表現させたりすることを通して、経済的事象を捉える見方や考え方の基礎を養う。 ・経済活動が、人間生活の維持・向上のために欠かすことのできないものであることを、身近な消費生活を通して理解させる。 ・無限で多様な人々の欲求に対して、社会の資源は有限であり、その資源からどの財やサービスを生産するか価格を考慮して選択するという、市場経済の基本的な考え方を理解させ、現代の生産や金融などの仕組みや働き、企業の役割と責任について考えさせる。
12	<p>第4章 私たちの暮らしと経済</p> <p>④財政と国民の福祉</p> <p>⑤これからの経済と社会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障の基本的な考え方と日本の社会保障制度のあらましを理解したうえで、これからの社会保障制度について、持続可能性の観点から考察させる。 ・国民の生活と福祉の向上を図るために、市場の働きに委ねることが難しい諸課題の解決において、政府が果たしている経済的な役割に気づかせるとともに、財源の確保と配分という観点から財政の在り方について考えさせる。

1	<p>第5章 地球社会と私たち</p> <p>①国際社会の仕組み</p> <p>②様々な国際問題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会の現状や諸課題について関心を持たせ、日本の果たすべき役割について考えさせるとともに、世界平和の実現と人類の福祉の増大に向けての熱意と協力しようとする態度を育てる。 ・国際社会の現状や諸課題について、さまざまな資料を基に分析させ、公正に判断させ、適切に表現させる。 ・国際社会の現状や諸課題、国際機関の活動に関するさまざまな資料を収集・選択させ、的確に読み取らせる。 ・国際社会における国家や国際機構、NGO の役割や、それらが国際社会の諸課題を解決するために行っている取り組みについて理解させる。
2	<p>③これからの地球社会と日本</p> <p>終章 より良い社会を目指して</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際的な相互依存関係の深まりの中で、世界平和の実現と人類の福祉の増大のために、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことが重要であることに気づかせる。 ・地理的分野，歴史的な分野，公民的分野の3年間の社会科学習を振り返り，持続可能な社会の形成者として解決すべき課題の考察に，章の学習の見通しを持って取り組ませる。

数学科シラバス（第3学年）

指導の方針

○基礎的・基本的な知識及び技能の習得をめざして

- ・毎時間の小テストにより、計算力の向上を目指します。
- ・自力解決できるように演習の時間を確保します。

○思考力・判断力・表現力その他の能力の育成をめざして

- ・式、表、グラフなどの様々な表現様式を用いて、事象の変化の様子や特徴を捉え、思考力・判断力・表現力を育成します。

○学習意欲の向上や学習習慣の確立をめざして

- ・問題集やレポートを定期的に評価し、学習習慣の定着を図ります。
- ・ICTを活用し、指導の工夫を図り、意欲を向上させます。
- ・4人班での話し合い活動を積極的に取入れ、理解を深める時間を設けます。

評価の観点と評価規準

評価の観点	評価規準	評価の資料
主体的に学習に取り組む態度	A：授業に主体的に参加し、提出物を期限内に提出し、その取り組みも優れている。また自己の学習を振り返り、根気強く学習に取り組むとともに、より良く学習をすすめることができる。 B：授業に意欲的に参加し、提出物を期限内に提出することができる。また、自己の学習を振り返り、工夫して学習を進めることができる。 C：授業に積極的に参加していない又は提出物をしっかりと取り組めていない。学習の振り返りもはできていないが、改善が不十分である。	授業態度 ワーク・レポート 振り返りシート 単元ごとの分析シート
数学的な思考・判断・表現	A：数学的な見方や考え方が十分に身につけており、根拠に基づいて説明し表現することができる。 B：数学的な見方や考え方が身につけている。考え方を表現できる。 C：数学的な見方や考え方が身につけているが、努力を要する。	授業中の発表・取り組み テストの得点 小テストの得点 解き方の工夫
数学的な知識・技能	A：知識を用いて数学的な表現や処理を行い、活用することが出来る。 B：数学的な表現や処理の仕方が身につけている。知識を備えている。 C：数学的な表現方法や処理の仕方が身につけているが、努力を要する。	授業中の発表・取り組み テストの得点 テスト直し 説明力 （解き直しレポート）

各観点の達成状況 A 85%以上 B 45%以上 C 45%未満

原則、上に定めた基準で評価します。達成状況によっては基準が下がる場合があります。

評価と評定の関連

※評定（5段階）は、各観点の評価（A^{マル}O=5点、A=4点、B=3点、C^{マル}O=2点、C=1点）をもとに算出します。評価と評定の関連は、下表（例）のとおりです。

各観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	評定
^{マル} A ^{マル} O ^{マル} A ^{マル} O	15点	^{マル} A ^{マル} O ^{マル} A ^{マル} O	14点			5
^{マル} A ^{マル} O ^{マル} A ^{マル} A	13点	A ^{マル} A ^{マル} A	12点	^{マル} A ^{マル} O ^{マル} B ^{マル} B	11点	4
A ^{マル} B ^{マル} B	10点	B ^{マル} B ^{マル} B	9点	B ^{マル} B ^{マル} C ^{マル} O	8点	3
B ^{マル} C ^{マル} O ^{マル} C ^{マル} O	7点	C ^{マル} O ^{マル} C ^{マル} O ^{マル} C ^{マル} O	6点	C ^{マル} O ^{マル} C ^{マル} O ^{マル} C	5点	2
C ^{マル} O ^{マル} C ^{マル} C	4点	C ^{マル} C ^{マル} C	3点			1

学習内容と評価のめあて

月	学習内容	指導のめあて
4	1章 多項式 ・ 多項式の計算 ・ 因数分解 ・ 式の計算の利用	○ 文字を用いた簡単な多項式について、式の展開をできるようにする。 ○ 因数分解ができるようにするとともに、目的に応じて式を変形することができるようにする
5	2章 平方根 ・ 平方根素因数分解 ・ 根号をふくむ式の計算 ・ 平方根の利用	○ 正の数の平方根について理解する。 ○ 素因数分解や根号をふくむ式の乗除・加減の計算をできるようにする。 ○ 平方根について理解し、それを用いることができるようにする。
6	3章 二次方程式 ・ 二次方程式とその解き方 ・ 二次方程式の利用	○ 二次方程式について理解し、それを用いることができるようにする。 ○ 二次方程式を利用して色々な文章問題を解くことができるようにする。
7	4章 $y = ax^2$ ・ $y = ax^2$ $y = ax^2$ のグラフ	○ 具体的な事象のなかから2つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、関数 $y = ax^2$ について理解できるようにする。
9 10	・ いろいろな関数の利用 5章 相似な図形 ・ 相似な図形	○ 関数関係を見だし、表現、考察することができるようにする。 ○ 図形の性質を三角形の相似条件をもとにして確かめ、論理的に考察し表現することができるようにする。
11	・ 平行線と比 ・ 相似な図形の面積と体積 6章 円 ・ 円周角の定理	○ 平行線と比の定理や相似比・面積比・体積比を理解できるようにする。 ○ 観察、操作や実験などを通して、円周角と中心角の関係を見だして、理解できるようにする。
12	・ 円周角の定理の利用 7章 三平方の定理 ・ 三平方の定理	○ 円周角の定理やその逆、円周角の定理から導き出されるそのほかの定理を利用して、作図の方法や図形の性質を考察することができるようにする。 ○ 三平方の定理について理解し、それを用いることができるようにする。
1	・ 三平方の定理の利用	○ 三平方の定理を利用して、さまざまな問題を解決できるようにする。
2 3	8章 標本調査 ・ 標本調査 ・ 標本調査の利用 ・ いろいろな問題	○ 標本調査の意味やその方法を理解し、標本の傾向から母集団の傾向をよみとれることを理解できるようにする。 ○ 身のまわりの問題を、標本調査を利用して解決できるようにする。 ○ 入試対策 ○ 3年間の復習

理科シラバス（第3学年）

指導の方針

○基礎的・基本的な知識及び技能の習得をめざして

- ・ 安全・正確に観察・実験を行う技能を身につけさせます。
- ・ ねらいを明確にした授業を行い、基礎・基本を身につけさせます。

○思考力・判断力・表現力その他の能力の育成をめざして

- ・ 観察・実験の結果、記録などを、筋みちを立てて考察し、自分の考えをまとめ、他者の意見を取り入れ、深化させる学習活動を展開します。

○学習意欲の向上や学習習慣の確立をめざして

- ・ 日常生活での事象や体験を意識した導入を行い学習意欲を向上させます。
- ・ 基礎・基本の確実な定着のために、小テスト、プリント、問題集等を活用します。

評価の観点と評価の資料

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の資料	実験の技能 レポート 技能テスト 定期テスト	レポート 定期テスト 考え及び考えの発想 等	学習への態度・姿勢 ポートフォリオ レポート 提出物 忘れ物 等

評価と評定の関連

○各教科の評定（5段階）は、各観点の評価（A〇＝5点、A＝4点、B＝3点、C〇＝2点、C＝1点）をもとに算出します。評価と評定の関連は、下表のとおりです。

3観点の合計（例）						
三観点の組み合わせ	合計点数	三観点の組み合わせ	合計点数	三観点の組み合わせ	合計点数	評定
A〇A〇A〇	15点	A〇A〇A	14点			5
A〇AA	13点	AAA	12点	A〇BB	11点	4
ABB	10点	BBB	9点	BBC〇	8点	3
BC〇C〇	7点	C〇C〇C〇	6点	C〇C〇C	5点	2
C〇CC	4点	CCC	3点			1

学習内容と学習のねらい

月	学習内容	学習のねらい
4	2 生命の連続性 ①生物の成長と殖え方	<ul style="list-style-type: none"> 多細胞生物は細胞分裂で成長することを理解し、細胞分裂の過程をとらえる。 生物は有性生殖や無性生殖によって子孫を残していることを理解する。 遺伝の規則性等について理解する。
5	②遺伝の規則性 ③生物の種類の多様性と進化	
6	1 化学変化とイオン ①水溶液とイオン	<ul style="list-style-type: none"> 水溶液には電流が流れるものと流れないものがあることを理解する。 イオンの存在を知り、電池とイオンの関連を理解する。 酸性、アルカリ性の水溶液の性質を理解し、中和についてイオンを用いて説明する。
7	②酸・アルカリとイオン	
8	③電池とイオン	
9	4 運動とエネルギー ①力の規則性	<ul style="list-style-type: none"> 物体にはたらく力の存在、合力、分力を理解する。 運動には速さと向きがあることを理解する。 エネルギーには、さまざまな姿があること、エネルギーの総量は一定であることを理解する。
10	②力と運動 ③仕事とエネルギー ④エネルギーの移り変わり	
11	3 地球と宇宙 ①天体の1日の動き	
12	②天体の1年の動き ③月や惑星の動きと見え方 ④太陽系と恒星	<ul style="list-style-type: none"> 恒星や太陽などの天体の日周運動は、地球の自転によって説明できることを理解する。 星座に対する太陽の1年の動きは、地球の公転によって説明できることを理解する。 太陽系についておもに太陽、月、金星の特徴を知る。
1	5 自然環境や科学技術と私たちの未来 ①生物と環境との関わり	
2	②自然環境と私たち ③自然災害と私たち	<ul style="list-style-type: none"> 環境との調和を図りながら、科学と技術を発展させていく必要があることを理解する。 地球環境を守り、自然との共生の必要性を認識する。 自然界で生物と環境要因が互いにかかわり、全体としてつりあいが保たれていることを理解する。 環境との調和を図りながら、科学と技術を発展させていく必要があることを理解する。
3	④エネルギー資源の利用と私たち ⑤科学技術の利用と自然環境の保全	

音楽科シラバス（第3学年）

1 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を目指して

	<ul style="list-style-type: none">・歌唱曲の作詞者・作曲者、時代背景など要素の学習を通して、音楽の基礎基本を身に付けさせます。・歌唱においては、楽譜（旋律）からの音とり活動を充実させ、読譜力を身につけさせます。・鑑賞では、作曲した音楽家の時代や楽曲構成の理解、映像での鑑賞により音楽的感性の感受と音楽的要素を取り入れた文章による表現を行います。
--	---

歌唱	豊かな声量、美しい声で歌うことが一番大事なので、積極的に声を出すことを目指させます。音楽の授業やいろいろな行事で歌うときには声量があれば高評価につながります。歌のテストでは声量・響き・美しさに一番の比重をおきます。
器楽	主にアルトリコーダーの個人練習が中心となります。一生懸命取り組ませます。楽器の演奏は努力しないと上達しませんので、時間いっぱい練習させます。
鑑賞	映像やCD等の音楽を鑑賞して感じたことの感想記入や、教科書を使い鑑賞する曲の楽曲背景や音楽史などを勉強します。鑑賞の感想を書く場合は「良かった」とか「良かった」の一言で感想を書いたり、述べたりではなく、音楽の諸要素を言葉で表現できるように、自分の言葉できちんと説明できるような学習をさせます。

2 思考力・判断力・表現力その他の能力の育成を目指して

	<ul style="list-style-type: none">・こころから音楽を楽しむ授業（わくわく・どきどき・生き生き）を展開するとともに、特に鑑賞では書くことで思考力を高めさせます。・音楽科では、生徒の発達段階や題材の特質に応じて、信頼性・客観性のある絶対評価の充実を図り、指導と評価の一体化された活動を展開することで表現力やその他の技能の向上を図ります。
--	--

3 学習意欲の向上や学習習慣の確立を目指して

	<ul style="list-style-type: none">・学習内容に関する興味・関心を把握し、題材における導入や展開の工夫（デジタル教科書の使用）、生徒の実態に合わせた学習の展開をします。・授業六束から、正しい服装を整え、聴くときは聴く、歌うときは正しい姿勢で歌わせ、積極的に歌唱やリコーダーを練習し、表現できるようにします。
--	--

4 持ち物

授業の時には「音楽の教科書」「器楽の教科書」「コーラスフェスティバル」「リコーダー」「筆記用具」「音楽のキャンパス2・3年下」を持って来て下さい。尚、これらは音楽用のバッグにまとめて入れ、ロッカー等に置いたままで構いません。忘れ物をした場合は減点となりますので注意してください。また、各学期末には音楽の筆記試験、実技試験もあるので試験前には持ち帰って勉強して下さい。

5 実技及び定期テストについて

歌唱	声の大きさ・美しさ、音程、音楽の表情、姿勢・口のあけ方等を見ます。声の大きさ・美しさに一番の比重をおきます。但しテストの時だけ大きな声を出しても高得点にはなりません。日々の取り組みが大切です。
器楽	美しい音色でなめらかに演奏できているか、曲の終わりまでで演奏できたか、指使いは正しいか、姿勢などをみます。
鑑賞	鑑賞の授業後の感想用紙及び各学期の期末試験で勉強した知識の確認を行います。

6 評価の観点と評価規準

① 主体的に学習に取り組む態度

授業への積極的な取り組みや授業態度を中心に評価します。歌唱や器楽は得意・不得意に関係なく大きく美しい声で歌い自分の力で音楽を表現することが大切です。自ら進んで練習に取り組む楽曲に向き合うことも必要になります。

ただ授業に参加しているだけで声や演奏の音が聞こえない人、練習を怠る人、私語の多い人、忘れ物の多い人は主体的に学習に取り組む態度がないものと判断します。生徒手帳及び本校生活のきまりに準じた服装で授業に臨むこととします。

儀式に関わる科目でもありますので服装や作法の育成も必要となります。服装が乱れている場合、主体的に学習に取り組む態度がないものと判断します。

授業に参加するにあたって何も持ってこなかったり、教科書やリコーダー等の忘れが多かったりする人は、主体的に学習に取り組む態度がないものと判断し、評価をCとします。

【主な内容】授業態度、提出物の状況、忘れ物の有無、積極的に歌い演奏しているか等。

その他① 実技や鑑賞の試験が良い成績であっても、授業妨害（他の生徒への迷惑行為及び学習権の侵害など）があり、指導をしても改善がない場合は、評価をCとし評定を1とすることもあります。

その他② 授業態度、実技試験や筆記試験の結果によっては授業出席日数が十分であっても評定は1や2となります。

② 思考・判断・表現

歌唱（合唱・斉唱）、器楽演奏の実技試験を行い、その結果で評価します。実技試験で声や演奏が聴こえない場合は評価が出来ない為評価はCとします。

【主な内容】強弱や歌詞など楽曲に応じた表現ができていないか。曲趣に応じた音楽的身体表現。

③ 知識・技能

その時に勉強している楽曲に関する知識が必要であると考えます。各学期末に行う定期試験の結果を中心に評価します。また、鑑賞の授業中に居眠り、私語の多い人は筆記試験の点数が規準に達していても、音楽を鑑賞する気がないものと判断し評価をCとします。

歌唱（合唱・斉唱）、器楽演奏の実技試験を行い、その結果で評価します。実技試験で声や演奏が聴こえない場合は評価ができないため評価はCとします。

【主な内容】期末試験の得点、鑑賞の取り組み状況など。

正しい音程で歌えているか、リコーダーは正しい指使いができていないか、タンギングができていないか。姿勢など。

7 評定の主な例

【観点別学習状況の評価】

十分満足できると判断されるもののうち、特に程度の高いもの：A○

十分満足できると判断されるもの：A

おおむね満足できると判断されるもの：B

努力を要すると判断されるもの：C○

一層努力を要すると判断されるもの：C

※評定（5段階）は、各観点の評価（A○=5点、A=4点、B=3点、C○=2点、C=1点）をもとに算出します。評価と評定の関連は、下表（例）のとおりです。

各観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	評定
^{マル} A○ ^{マル} A○ ^{マル} A○	15点	^{マル} A○ ^{マル} A○ A	14点			5
^{マル} A○ A A	13点	A A A	12点	^{マル} A○ B B	11点	4
A B B	10点	B B B	9点	B B ^{マル} C○	8点	3
B ^{マル} C○ ^{マル} C○	7点	^{マル} C○ ^{マル} C○ ^{マル} C○	6点	^{マル} C○ ^{マル} C○ C	5点	2
^{マル} C○ C C	4点	C C C	3点			1

8 学習計画

	題材	教材	主な到達目標
1 学期	日本の歌を 味わう	「花」(歌唱)	音程やリズムを正確に捉え、歌詞と旋律が一体となった美しさを味わう。歌詞と旋律が一体となった美しさを味わい、日本の歌曲に親しませる。
	日本の伝統音楽の特徴や歌唱を理解して、その魅力を味わい、表現を工夫しよう	能「敦盛」	声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。
	曲想を感じて 器楽演奏しよう	「ラヴァーズ コンチェルト」	アルトリコーダーの基礎・基本を習得し、二重奏で演奏する。
	合唱の響きを 味わいながら 歌おう	合唱コンク ール学年合唱	曲のしくみを理解し、正確でいいいな音取りをする。鑑賞で学習した楽曲背景を合唱に生かし、曲種に応じた表現をする。
	混声合唱の美 しいハーモ ニーで歌おう	「合唱コンク ールクラスの 選曲・決定」	合唱コンクールへの取り組みを通して、様々な合唱曲を聴くことで表現力と音楽を愛好する心情を育てる。
2 学期	詩と旋律 合唱の響きを 味わおう	「学年合唱曲」 「クラス合唱 曲」	声部の役割を生かし、全体の響きに調和させて合唱する能力を育てる。合唱コンクールへの参加を通して、色々な合唱曲に取り組み表現力と合唱を愛好する心情を育てる。
	作曲者の思い を感じとりな がら、音楽を味 わう	「ブルタバ」	曲想と音楽の特徴との関わりに注目しながら味わって聴くことができる。作曲者が記した標題や解説、当時の時代背景から、作品に込められた思いを感じ取る。
3 学期	音楽のよさを 味わおう	「ポピュラー 音楽」	世界のポピュラー音楽を聴いて、音楽の特徴とその背景となる文化を関連付けて感じ取る。
	卒業式に向け て	卒業式歌 学年合唱	中学校生活を修了するにあたり、総まとめとして、音楽的・技術的にも最高の物を合唱で表現する。

生徒一人一人にも、最初の授業にほぼ同内容のガイダンスを行っております。

美術科シラバス（第3学年）

指導の方針

○基礎的・基本的な知識及び技能の習得をめざして

- ・対象を深く感じ取る力や想像力を一層高め、内面的により価値を置いた表現を身に付けさせる。
- ・美意識を高め、生活をより豊かにする美術の働きを理解させる。

○思考力・判断力・表現力その他の能力の育成をめざして

- ・独創的・総合的な見方や考え方を培い、形や色彩の特徴などを基に対象のイメージをとらえる。
- ・自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫し、制作の手順を考え、見通しを持って制作させる。
- ・作品などに対する思いや考えを説明し合い、見方や感じ方を広げる。

○主体的に学習に取り組む態度の確立をめざして

- ・授業六束を基本に、教科の特性を生かしながら指導を徹底する。
- ・生徒作品の展示を積極的に行い、鑑賞活動を通して制作意欲を高め、他者理解ができるようにさせる。

評価の観点と評価規準

評価の観点	主体的に学習に取り組む態度	思考・判断・表現	知識・技能
評価の観点	美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。	造形的な良さや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 ・表現方法を創意工夫し、創造的に表している。
評価の資料 <small>(学習のポイント)</small>	授業態度、 提出物、忘れ物、自己評価カード、 ポートフォリオ	制作時の発想やアイデアス ケッチ、 構想や制作計画、 ワークシート	制作した作品、適切な道具の使い方

評価と評定の関連

十分満足できると判断されるもののうち、特に程度の高いもの：A○

十分満足できると判断されるもの：A

おおむね満足できると判断されるもの：B

努力を要すると判断されるもの：C○

一層努力を要すると判断されるもの：C

※評定（5段階）は、各観点の評価（A○＝5点、A＝4点、B＝3点、C○＝2点、C＝1点）

をもとに算出します。評価と評定の関連は、下表（例）のとおりです。

各観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	評定
^{マル} A○ ^{マル} A○ ^{マル} A○	15点	^{マル} A○ ^{マル} A○ A	14点			5
^{マル} A○ A A	13点	A A A	12点	^{マル} A○ B B	11点	4
A B B	10点	B B B	9点	B B ^{マル} C○	8点	3
B ^{マル} C○ ^{マル} C○	7点	^{マル} C○ ^{マル} C○ ^{マル} C○	6点	^{マル} C○ ^{マル} C○ C	5点	2
^{マル} C○ C C	4点	C C C	3点			1

学習内容と学習のポイント

月	学習内容	学習のポイント
4 5 6 7	自分とは何？ ～15歳の肖像～ 自分を表す自画像・物・場所を描く【絵画】	<ul style="list-style-type: none"> 自己を深く見つめ、自分の表現したい主題を意識し、意欲をもって主体的に制作する。 3年間で身に付けた技能を発展・応用し、豊かな表現ができるよう工夫する。 制作するものの特徴をとらえ、形や色彩、構図、また表現方法や素材などを工夫して制作する。 鑑賞活動を通し、自他の作品の良さを味わう。
8	《夏休み課題》 ・絵本のストーリーを考える ・ポスターOR風景画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間の人生をふりかえり絵本制作に向けたオリジナルストーリーを考える。
9 10 11 12	絵本作家に学ぶ。【鑑賞】 【デザイン】 願いを伝える絵本とは ～15年間を込めて～	<ul style="list-style-type: none"> ディック・ブルーナの仕事【鑑賞】 絵本の表現に関心をもち、制作の楽しさを味わう。 「願い」を伝えるために効果的表現を工夫する。 形や色彩がもたらす効果を考えながら、粘り強く最後まで制作する。 鑑賞活動を通し、自他の作品の良さを味わう。
1	絵本フェスティバル鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> 友達の絵本表現のよさに学ぶ【鑑賞】 鑑賞活動を通し、自他の作品の良さを

2	タイムカプセル【立体】 ～30歳の自分へのメッセージ	味わう。 ・中学校3年間の思い出や将来の夢について関心を持ち、主体的に制作する。 ・材料の特性を生かし、部分と全体の意匠を工夫しながら粘り強く制作する。
3	三年間の美術の学びをふりかえる	

3学年 保健体育科シラバス

指導の方針

○基礎的・基本的な知識及び技能の習得をめざして

- ・技能の習得に向け、基礎的・基本的な運動を行い体力の向上を図る。
- ・新体力テスト県平均値を超えることを基本とした体力・技能の向上を図る。
- ・授業のねらいを意識して授業に取り組む。

○思考力・判断力・表現力その他の能力の育成をめざして

- ・少人数集団、グループでの話し合い活動を充実させる。
- ・学習カードを作成し、毎時間の自己評価、反省・感想を記入させ、発表する活動を展開する。

○学習意欲の向上や学習習慣の確立をめざして

- ・チャイム前着席、あいさつ、返事、時間を守るなど、授業規律を徹底し、学習活動をスムーズに行えるようにする。

評価の観点と評価規準

	主体的に取り組む態度	思考・判断・表現	知識・技能
評価規準	学習の約束事を守り、大きな声を出し、自ら意欲的に活動することができる。役割分担や仲間と協力して取り組むことができる。また、友達の考えや取組を認めることができる。	ねらいを持って活動し、学習カード等を利用した自己の反省・課題を見つけることができる。提示された動きなどのポイントと自己の動きを比較して課題を発見することができる。自己の課題について、思考し判断したことを、言葉や文章及び動作などで表したり、他者に理由を添えて伝えることができる。	体の動かし方や用具の操作方法などの知識を身につけることができる。基本的な技能を身につけることができる。☆単に運動に必要な知識や技能を身につけるだけでなく、運動の行い方などの知識を基に運動の技能を身につけたり、また、運動の技能を身につけることで、その理解を一層深めることができる。
評価の方法	出席状況や忘れ物提出物 授業中の取り組み	学習カード 授業中の発言や発表	技能テスト 単元テスト 授業中での動き方や発言

評価と評定の関連

○各教科の評定（5段階）は、各観点の評価（A°、A、B、C°、C）をもとに算出します。評価と評定の関連は、下表（例）のとおりです。

A° =5点 A=4点 B=3点 C° =2点 C=1点

評定	観点の点数	組み合わせ例
5	15~14	A° A° A° (15) A° A° A (14)
4	13~11	A° A A (13) A° B B (11)
3	10~8	A B B (10) B B B (9) B B C° (8)
2	7~5	B C° C° (7) C° C° C° (6) C° C° C (5)
1	4~3	C° C C (4) C C C (3)

領域および学習内容

月	領域	学習内容
4	体育理論	<ul style="list-style-type: none"> 各種運動の特性に応じた学び方や安全の確保の仕方、自己生活の中での生かし方を理解する。 各種運動の特性 安全の確保の仕方 自分に合った運動の仕方を身に付ける。
4 5	体づくり運動 【体育祭】	<ul style="list-style-type: none"> 体ほぐしの運動や体力を高める。 運動の必要性を理解させ自己の体力や生活に応じてどのような運動をすればよいか計画を立て、実施できる資質や能力を育成する。 体の調整の仕方 柔軟性、巧み性を高める。 持久力、力強い動きを高める。
5 6	選択Ⅰ 球技 ①【バスケットボール】 ②【ハンドボール】	<ul style="list-style-type: none"> 各種運動の基礎的技術を習得し、個人技能・集団技能を生かしたゲームができるようにする。 仲間で認めあい、協力して練習やゲームを行なう。 コート内やボールなど安全に留意して練習やゲームができるようにする。 ゲーム ポジションごとの役割とそれに必要な技能を理解してプレーできるようにする。 集団的技術 個人技術
5 6	陸上競技 【ハードル走】 【走り幅跳び】	<ul style="list-style-type: none"> 走の技能をたかめ、助走スピードを生かして素早く踏み切り、より遠くへ跳べるようにする。 走の技能をたかめスピードを落とさずリズムカルに跳躍する。 スピードを生かした踏み切り、タイミングをつかみ、スムーズなハードリングを身に付ける。 仲間と協力しながら取り組むことができる。 練習を工夫し、目標を設定して記録向上に努める
6 7	水泳 【クロール】 【平泳ぎ】 【背泳ぎ】 【バタフライ】 【リレー】	<ul style="list-style-type: none"> 各種の泳法で自己にあった練習課題を設定して、練習し、続けて泳げるようにする。 安全に留意して練習する態度を育てる。 水になれる運動 課題別練習 より上手に長く泳ぐための練習 同じ課題をもったもの同志でグループ学習。
		<ul style="list-style-type: none"> ダンスの特性に関心を持ち、仲間と共に踊る楽しさを味わえる

9 10	選択Ⅰ ①ダンス 【現代的なリズムのダンス】 ②器械運動 【マット】	ように意欲的に活動する。 ・基本的なステップや動き方を身につけて、のびのび踊る。 ・作品としてまとめた動きを、仲間と関わりを持って感情を込めて踊ったり、動きを合わせて踊れる。 ・各種運動の基本的技能を高め、できる技できそうな新しい技に挑戦し、組合せを工夫し、楽しむことができるようにする。 ・自己の課題を見付け、互いに補助活動しながら技能習得に努める。 ・場の安全に留意することができる。 ・課題別練習と発表会 ・課題別グループ練習
10 11	選択Ⅱ 球技 ①【バスケットボール】 ②【ハンドボール】	・各種運動の基礎的スキルを習得し、個人技能・集団技能を生かしたゲームができるようにする。 ・仲間で認めあい、協力して練習やゲームを行なう。 ・コート内やボールなど安全に留意して練習やゲームができるようにする。 ・ゲーム ポジションごとの役割とそれに必要な技能を理解してプレーできるようにする。 ・集団的スキル ・個人技能
11 12	選択Ⅲ 武道 ①【剣道】 ②【柔道】 球技 ③【ソフトボール】	・基本動作や基本的な対人技能を身につけさせ、その攻防による簡単な試合ができるようにする。 ・互いを尊重し、礼儀を重んじた正しい練習や試合の方法を身に付ける。 ・剣道、柔道 礼法、基本動作、技の習得、簡易試合。 ・各種運動の基礎的スキルを習得し、個人技能・集団技能を生かしたゲームができるようにする。 ・仲間で認めあい、協力して練習やゲームを行なう。 ・コート内やボールなど安全に留意して練習やゲームができるようにする。 ・ゲーム ポジションごとの役割とそれに必要な技能を理解してプレーできるようにする。 ・集団的スキル ・個人技能
1	陸上競技 【長距離走】	・長い距離を走り通すとともに自己の記録を向上させる。 ・長距離走の走法、呼吸法、ペース配分を身に付ける。 ・練習を工夫し、目標を設定して記録向上に努める。
1 2	選択Ⅳ 球技 ①【バレーボール】 ②【サッカー】 ③【テニス】	・各種運動の基礎的スキルを習得し、個人技能・集団技能を生かしたゲームができるようにする。 ・仲間で認めあい、協力して練習やゲームを行なう。 ・コート内やボールなど安全に留意して練習やゲームができるようにする。 ・ゲーム ポジションごとの役割とそれに必要な技能を理解してプレーできるようにする。 ・集団的スキル ・個人技能

技術・家庭科シラバス（第3学年）

指導の方針

○基礎的・基本的な知識及び技能の習得をめざして

体験的な授業、繰り返し学習を重視するなど、個に応じた指導を発達段階に応じて徹底して習得させ、基礎的・基本的な知識・技能を習得させる。

○思考力・判断力・表現力その他の能力の育成をめざして

小グループでの話し合いを通して言語活動の充実を図る。

図や計画表などを使い、表現活動も充実するような課題を設定する。

○学習意欲の向上や学習習慣の確立をめざして

新授業六束を徹底させ、チャイム前着席や提出物、学習規律の確立を図る。
生徒の工夫し創造する力を高められるよう個が活かせる授業の設定や掲示の充実を図る。

評価の観点と評価規準

評価と評定の関連

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	・生活や技術に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、生活と技術とのかわりについて理解しているとともに、適切に作品作りを行うことができる。	生活について問題を見出し、課題を見つけ、その解決を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	生活や技術について課題解決に主体的に取り組んだり、振り返ったり改善したりして、生活を充実向上するために、工夫し創造し、実践しようとしている。
評価資料	・テスト ・ワークシート ・レポート ・ワーク ・作品 ・実習の様子	・テスト ・ワークシート ・レポート ・ワーク ・授業や実習の様子	・テスト ・ワークシート ・レポート ・ワーク ・授業や実習の様子
評価の方法	・定期テストの結果を評価する。 ・ワークシート、ワーク、レポートの記載内容を評価する。 ・製作品の出来を評価する。 ・実習中の実技の能力を評価する。	・定期テストの結果を評価する。 ・ワークシート、ワーク、レポートの記載内容を評価する。 ・授業中の言動を評価する。	・定期テストの結果を評価する。 ・ワークシート、ワーク、レポートの記載内容を評価する。 ・授業中の言動を評価する。

評価と評定の関連

※評定（5段階）は、各観点の評価（ $\overset{\text{マル}}{\text{AO}}=5$ 点、 $\text{A}=4$ 点、 $\text{B}=3$ 点、 $\overset{\text{マル}}{\text{CO}}=2$ 点、 $\text{C}=1$ 点）をもとに算出します。評価と評定の関連は、下表（例）のとおりです。

各観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	評定
$\overset{\text{マル}}{\text{AO}}$ $\overset{\text{マル}}{\text{AO}}$ $\overset{\text{マル}}{\text{AO}}$	15点	$\overset{\text{マル}}{\text{AO}}$ $\overset{\text{マル}}{\text{AO}}$ A	14点			5
$\overset{\text{マル}}{\text{AO}}$ A A	13点	A A A	12点	$\overset{\text{マル}}{\text{AO}}$ B B	11点	4
A B B	10点	BBB	9点	B B $\overset{\text{マル}}{\text{CO}}$	8点	3
B $\overset{\text{マル}}{\text{CO}}$ $\overset{\text{マル}}{\text{CO}}$	7点	$\overset{\text{マル}}{\text{CO}}$ $\overset{\text{マル}}{\text{CO}}$ $\overset{\text{マル}}{\text{CO}}$	6点	$\overset{\text{マル}}{\text{CO}}$ $\overset{\text{マル}}{\text{CO}}$ C	5点	2
$\overset{\text{マル}}{\text{CO}}$ C C	4点	C C C	3点			1

学習内容と評価のめあて（3年）

	月	学習内容	指導のめあて
家庭分野	4	・ガイダンス	・家庭科の教科としての特徴を知る。
	5		生活を豊かにする考え方や態度、技術の習得
	6	・自分の成長と家族	・自分の成長と家族や家庭生活のかかわりを考える
	7	・幼児の生活と遊び	・幼児の発達と生活の特徴、家族の役割を理解する
	9	・幼児の生活習慣	・遊びの種類、意味、人との関わりについて考える
	10	・子どもの成長と地域	・これからの自分と家族の関わりについて考える。
	11	・これからのわたしと家族	・さまざまな高齢者がいることを理解し、高齢者
	12	・多様な人びとが暮らす地域	とのかかわりを考える。
	1	・地域に暮らす高齢者	・誰もが尊重される家庭・地域の生活をめざして
	2	・持続可能な家庭生活をめざして	課題をみつけ、実践的に取り組む。 ・家族、地域、社会でのさまざまな問題を把握し、持続可能な社会に向けてできることを考える。
技術分野	4	【生物育成の技術】	・生物育成の目的や環境条件を考えよう。
	5	・生物育成に適する条件と育成環境	・育成環境の管理技術を理解しよう。
	6		・生物育成の技術を適切に評価しよう。
	7	・生物育成の技術の適切な評価	・栽培計画を立て、成長段階に応じて適切な管理
	9	・活用	作業ができるようになるろう。
	10	・生物育成の技術を利用した栽培	
	11		
	12	・作物の管理方法	
	1		
	2		

3年生は、技術分野と家庭分野を通年各週で実施します。

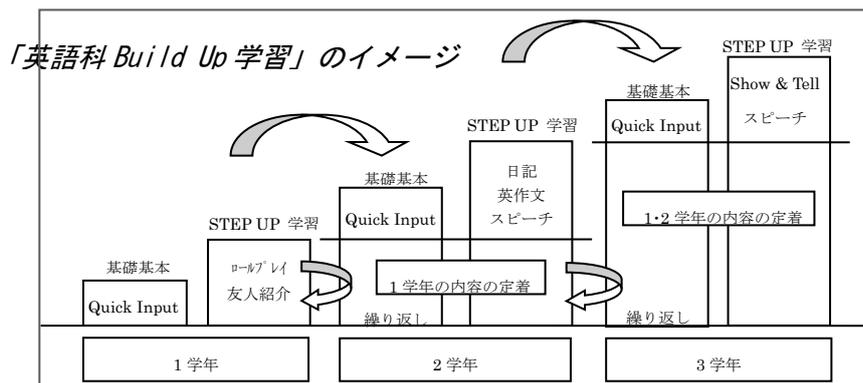
英語科シラバス（第3学年）

1 基礎的・基本的な知識及び技能の習得をめざして

- 繰り返し学習である「Quick Input 活動」では基本文の定着を目指します。
- 単語などの小テストや、音読テストの実施による基礎・基本の徹底を目指します。

2 思考力・判断力・表現力その他の能力の育成をめざして

- 「Quick Input 活動」や「My project」などで、さらに実際に活用させる場面を作り応用力を高めていく「Step Up 学習」へと活動を広げていきます。
- 「英語でスピーチしよう」などの課題に取り組み、Quick Input 活動で定型文やたくさんの表現を学び、その表現を覚えて語句を置き換えることで、自分の意見や考え、経験を文章にしていくアウトプット活動につなげることで英語で表現することに慣れていきます。



3 学習意欲の向上や学習習慣の確立をめざして

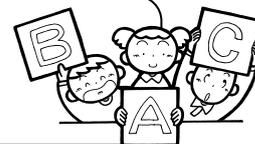
- 「新授業六束」をしっかり守り、授業に臨む姿勢を育成します。
- ノートやワーク、Quick Input 等を活用し、家庭学習を習慣化できるようにします。
- 授業で習った内容を定着させるため、毎時間宿題を提示します。

4 3年生の目標

- 1・2年生で学んだ英語の基礎をいまえ、より多くの語句や文法項目を身に付ける。特に、教科書本文の意味がわかる（読むこと）、授業内の指示が英語で聞ける（聞くこと）、みんなの前で英文を発表する（話すこと）、自分の経験などを英文にできる（書くこと）、を目標とします。

5 使用教材と持ち物

- 教科書
- ノート1冊（授業用、自主学習用）
- ワーク
- ファイル1冊（授業プリント用）



6 授業について

- 休み時間のうちに授業の用意をしましょう。
- 宿題を必ず行いましょう。
- A・L・T（外国人の先生）が来た時には、積極的に会話に参加しましょう。
- 忘れ物をしたときには、授業前に先生に言いに来ましょう。
- 普通の授業でも、英語を使うことに慣れるために積極的に発言しましょう。
- 参加意欲や授業態度、単語テストや音読テストは評価に影響します。

7 英語の学習法・ポイント

- 新しくでてきた単語・連語は全てしっかり覚え、書けるようにする。
- 授業中の発音、発言は大きな声でしっかりとする。
- 授業で習った内容はワークや宿題を活用して、その日のうちに復習する。
- 定期試験までに、学習している文法項目を整理して、まとめておく。
- “Quick Input”のシートを繰り返し読んで覚え、音読できるようにする。

8 評価の観点と評価規準

観点	評価内容	評価方法
主体的に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを話したり、つなぎ言葉を使って話を続けたりしようとしている。 間違いを恐れずに積極的に言語活動に取り組める。 積極的に音読し、わからないところは辞書を活用して読もうとしている。 知っている語句や表現を使って相手に英文を書いて伝えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 会話活動 クイックへの取り組み 挙手、発言 提出物等
思考力 判断力 表現力	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや意見を話したり書いたりすることができる。 場面や状況にふさわしい表現を用いて話したり、応答したりできる。 . 	<ul style="list-style-type: none"> 定期テスト スピーチや作文 音読テスト
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 話し手の考えや意見を聞いて理解することができる。 まとまりのある英文を読んで、あらすじやその内容を理解することができる。 英語の言語構造を理解し、正しい語順と文法で身につけている。 英語を使う上で必要な英語圏の生活習慣や文化的背景について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期テスト リスニングテスト 長文読解 英単語テスト ワークシート

※評定（5段階）は、各観点の評価（A^{マル}O=5点、A=4点、B=3点、C^{マル}O=2点、C=1点）をもとに算出します。評価と評定の関連は、下表（例）のとおりです。

各観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	評定
A ^{マル} O A ^{マル} O A ^{マル} O	15点	A ^{マル} O A ^{マル} O A	14点			5
A ^{マル} O A A	13点	A A A	12点	A ^{マル} O B B	11点	4
A B B	10点	B B B	9点	B B C ^{マル} O	8点	3
B C ^{マル} O C ^{マル} O	7点	C ^{マル} O C ^{マル} O C ^{マル} O	6点	C ^{マル} O C ^{マル} O C	5点	2
C ^{マル} O C C	4点	C C C	3点			1

9 学習内容と評価のめあて ※年間の全ての学習内容に Quick Input 活動を取り入れます。

	月	学習単元	学習内容・文法項目	学習のねらい
1 学期	4	Classroom English	<ul style="list-style-type: none"> インタビュー、自己紹介 辞書の活用 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい級友にインタビューし、自己紹介をすることができる。 辞書を活用して積極的に英語を使うことができる。
		Program 1	<ul style="list-style-type: none"> ask 人 to ~ it is ~ to ... 現在完了（経験） 	<ul style="list-style-type: none"> 他者に行動を依頼することができる。 特定の動作に対する自分の感じ方を伝えることができる。 have+過去分詞を用いて自分の経験を伝えることができる。
	5	Program 2	<ul style="list-style-type: none"> 現在完了（完了） 現在完了（継続） 現在完了進行形 	<ul style="list-style-type: none"> have+過去分詞を用いて自分の動作の完了を伝えることができる。 have+過去分詞を用いて自分が続けていることを伝えることができる。 have+been ~ing を用いて自分が続けていることを伝えることができる。
			Program 3	<ul style="list-style-type: none"> He told me (that) (make A + B) [A を B にする]
	7	Our Project	<ul style="list-style-type: none"> ポスターセッション 	<ul style="list-style-type: none"> グループで協力して1つのトピックについてポスターを作成し、訪問者とやりとりをすることができる。
		Reading	The Meaning of Life	<ul style="list-style-type: none"> まとまりのある英文を読んで、内容を理解することができる。 読んだことについて要点を話して表現することができる。
2 学期	9	Program 4	<ul style="list-style-type: none"> 現在分詞の後置修飾 過去分詞の後置修飾 Do you understand what~? 	<ul style="list-style-type: none"> 何かをしている人やものの詳しい説明をすることができる。 何かされているものの詳しい説明をすることができる。 後置修飾の用法を正しく身につけ、運用することができる。 間接疑問文の表現を正しく身につけ、運用することができる。
	10	Program 5	<ul style="list-style-type: none"> 関係代名詞（主格） who 関係代名詞（主格） which 関係代名詞（主格） that 	<ul style="list-style-type: none"> 人について詳しく説明することができる。 ものや事柄について詳しく説明することができる。 関係代名詞（主格）の表現を正しく身につけ、運用することができる。
	11	Program 6	<ul style="list-style-type: none"> 関係代名詞（目的格） which 関係代名詞（目的格） that 関係代名詞（目的格）の省略 	<ul style="list-style-type: none"> ものや事柄について詳しく説明することができる。 人やものについて詳しく説明することができる。 関係代名詞（目的格）の表現を正しく身につけ、運用することができる。

	12	Our Project	ディスカッション	グループで協力して様々な意見を考え、ディスカッションをすることができる
		Program 7	<ul style="list-style-type: none"> • if I were～ • I wish I had 	<ul style="list-style-type: none"> • 仮定法を使い、ものや事柄について詳しく説明することができる。 • I wish + 主語 + 仮定法過去の表現を正しく身につけ、運用することができる。
		Reading	(Reading) マララさんのスピーチ	<ul style="list-style-type: none"> • まとまりのある英文を読んで、内容を理解することができる。 • 読んだことについて要点を話して表現することができる。
3 学 期	1	Special Project	<ul style="list-style-type: none"> • 中学校の思い出を残そう (Reading) 	<ul style="list-style-type: none"> • まとまりのある英文を読んで、内容を理解することができる。 • 既習事項を用いて原稿を作成し、卒業に向けての思いを伝えることができる。 • 読んだことについて要点を話して表現することができる。
	2	Further Reading	<ul style="list-style-type: none"> • A Birthday Present • The Ig Nobel Prize 	
	3		<ul style="list-style-type: none"> • Nakamura Tetsu 	